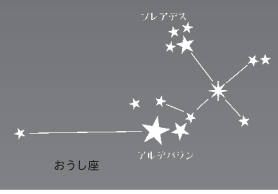
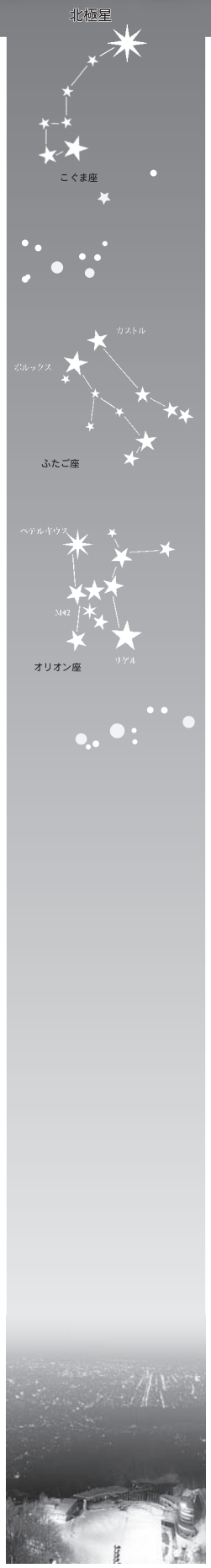


ー医師会長エッセイー

ポラリスを仰ぐ北の大地から



新任挨拶

赤平市医師会　会長　郡　　正博

赤平市医師会の前会長赤川先生からバトンを受け、この度就任した郡です。赤平市にある平岸病院という精神科主体の病院で働いている精神科医です。

簡単に自己紹介します。昭和45年札幌医大に入学しました。私が医者になったのは自分がなりたいと思ったのより、父がどうしても私を医者にさせたかったからだと思います。でもその父は私が入学したその年の１月に突然心筋梗塞で倒れ、息子の合格も知らずあの世へ行ってしまいました。大学ではバスケットボール部でしたが、自然気胸になり途中で断念しました。卒業時に、札医大精神科に入局しようとしたら、医局から入局しないで疎開してくれと言われ、入局浪人になりました。私には婚約者が東京にいたので国立武蔵療養所の研修医になりました。２年の研修後帰道しましたが、医局には落ち着かず、平岸病院に就職し、大学には半日研究生として入局させてもらいました。当時はやがて大学に戻って勉強をしようと思っていましたが、結局今日まで赤平市で地域の医療にかかわっています。

途中昭和59年から３年間富良野の北の峰病院で働き富良野医師会に所属した以外は、ずっと赤平市医師会に所属しています。若い頃は全く医師会に興味がなく、年に１度の総会に出席するくらいでしたが、長く所属していると、医師会の人間関係がその街の医療レベルを上げることに気が付き、少しずつ医師会の仕事をするようになりました。しかし私は前任の赤川先生が赤平市医師会の永久会長と思っていましたので、自分が会長になるなんて考えてもいませんでした。

私は立派なことはできないと思いますが、地道な活動を通して地元の医療に貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

舵を切った？

深川医師会　会長　成田　昭彦

「安保法制が国会で成立したね。新聞、マスコミや世論調査では集団的自衛権について否定的な意見が多かった。自衛隊がアメリカと一緒になって戦争することになる？戦争のできる国に舵を切った？」。

「そうじゃない。安倍さんが言っていたように、戦争抑止力になる。どんな同盟条約でも集団的自衛権はある、普通の国になるだけ」。

「専守防衛じゃだめなの？戦後70年間戦争しなかった実績があるじゃない。どうしてもアメリカの要請に応じなきゃだめなの？」。

「今の中国見てごらんよ。南沙諸島の岩礁を埋め立てて、国際法的には認められない領地、軍事基地にしようとしている。九段線とか言って近隣諸国にお構いなしに南シナ海をまとめて領海にしようとしている。日本にとってもシーレーンとして最も重要な所だよ」。

「先日アメリカのイージス艦が中国の主張する領海に侵入して行ったね。次は自衛艦もご一緒にとアメリカはプランしているらしい、度々になるうち軍事衝突なんて事も」。

「それはないでしょ。中国にとっても日米ともに最大の貿易相手国だもの」。

「でも相手は中国だよ、普通の論理が通じる国ではない。どうやって解決するの、尖閣諸島の事もあるし。フィリピンは南沙諸島の中国領有の違法性について国際司法裁判所に提訴しているけど、中国はその審理にさえ応じていない」。

「このことだけじゃなく世界の警察としてアメリカは世界中に難問を抱えている、帝国の宿命かな。同盟国日本よ、少しは肩代わりしてよ、一緒に汗流してよ、今日の日本の繁栄と平和は誰のお陰と思ってるの」。

「でも戦争は絶対にしてはならない。子子孫孫戦争はしないと誓ったんです、たとえ押しつけられた憲法であったとしても」。